

史学委員会歴史認識・歴史教育に関する分科会（第25期・第1回）
議事要旨

日時 令和3年1月11日（月） 13時～15時10分

会場 オンライン（ZOOMミーティング利用）開催

出席者：栗田禎子、佐野正博、若尾政希、井野瀬久美恵、長志珠絵、大日方純夫、川島 真、君島和彦、久保 亨、久留島典子、小嶋茂稔、近藤孝弘、坂井俊樹、鈴木 茂、辻田淳一郎、中村元哉、姫岡とし子、星乃治彦、水羽信男、桃木至朗、柳原敏昭（以上21名）

議題

1. 役員を選出

委員長に栗田禎子、副委員長に久留島典子、幹事に鈴木茂、中村元哉を選出した。

2. 25期の活動方針と今後の進め方について

【25期の活動方針について】

今期の活動方針について全員で意見交換し、歴史認識・歴史教育をめぐる現状、また「歴史総合」や「探求」等の教科書の執筆・検定・採択スケジュール等について情報共有を行なった。その結果、25期に取り組むことが可能かつ現実的な課題として、当面は下記2本の柱を立てて審議を進めることになった。

- ① 教科書の制度をめぐる問題について、24期で「記録」としてまとめられた議論・検討の成果を生かすと共に、教科書のデジタル化をめぐる動きなど新たな論点も加えた形で審議し、提言として結実させることをめざす。
- ② 歴史認識のあり方をめぐる諸問題について、各委員から提起された多様な論点に関する議論を深め、学術的観点からの提言や、社会への発信につなげていく。

提起された主な論点：

人類的・社会的観点からの歴史認識のあり方、学術会議任命拒否問題の歴史的・科学的分析、東アジアの歴史認識問題、AI化時代の歴史教育のあり方と歴史認識の形成、社会における歴史認識の形成プロセス（青少年の歴史意識、SNSの役割等）、歴史認識とグローバル化、歴史認識と「近代」、発展段階論的未来社会像をどう見るか、コロナ禍と歴史認識の変容、歴史の記憶・記録と歴史認識 など

【今後の進め方】

委員長より、今年度中に第2回分科会を開催すること、その際、緊急性の高いテーマとして、学術会議任命拒否問題を歴史認識に関わる問題として検討する

ことが提案され、了承された。日時は別途日程調整の上で決定すること、内容・形式については国際的観点や、学問と社会、科学と政治との関係、あるいは学会の歴史との関係など、2～3本の短い問題提起&報告を委員に依頼し、それを踏まえて全体討議を行なう方針であることも了承された。

3. その他

今期幹事会から2月に回答が求められている「第25期の分野別委員会、分科会等の活動について(お願い)」は、前期分科会活動に関して回答する性格が強いので、栗田委員長と久留島前期委員長が協議して回答原案を作成し、委員に諮る形で進めることとなった。

以上